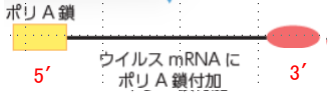



## 正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2023年6月23日）

### ■第1刷（2022年9月1日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第1章 微生物学を学ぶ目的					
37	下から1行目	<del>それでもまだ先進国のなかでは日本の結核罹患率は飛び抜けて高く、また新規結核患者数は年間2万人前後である。</del>	2021年に年間約11,000人となりやっと低蔓延国になった。		22/09/09
第6章 微生物と感染症					
108	表5	(HPV2)	(HSV2)		22/09/02
109	下から11行目	<del>日本の結核罹患率は2017年度では13.3であり減少しているが、欧米の先進国が10以下であることを考えれば、まだ多い。</del>	日本の結核罹患率は2021年に9.2となり、やっと10以下の低蔓延国に仲間入りした。		22/09/09
第7章 生体防御					
128	表2の最下行	特徴 ①オプソニン化 ②中和 ③補体活性化	特徴	表中から、左の①～③の語句を削除	22/10/28
第8章 感染症の制御					
159	下から1行目	の温度では痛むメス	の温度では傷むメス		22/09/02
第10章 抗菌薬					
216	下から5行目	RNA合成を阻害する	RNA合成を阻害する。	(句点)	22/09/02
217	上から7行目	肝臓でN-アセチル	肝臓でA-アセチル	(イタリック体)	22/09/02
第11章 細菌感染症					
240	図4の図説明	顔面皮膚が後半に	顔面皮膚が広範に		22/08/26
249	下から16行目	<del>先進国のなかではまだ患者が多い(年間17,000人)、その</del>	先進国のなかでは患者が多いことが続いていたが、2021年に年間約11,000人となりやっと低蔓延国になった。患者の		22/09/09
第12章 抗ウイルス薬とウイルス感染症					
282	上から19行目	キャップ構造とポリA鎖★1をそれぞれ3'末端、5'末端に	キャップ構造★1を5'末端に		22/09/02
282	図5			3', 5' 入れ換える	22/09/02
288	下から9行目	インターフェロン-α (IFN-α)と	インターフェロン-α (IFN-α)、 <del>インターフェロン-β (IFN-β)</del> と		22/09/02
288	下から3行目	IFN-2b	IFN-α-2b		22/09/02
294	側注	CXCケモカイン(システイン-別のアミノ酸3つ-システイン)、CX3Cケモカイン(システイン-別のアミノ酸-システイン)	CXCケモカイン(システイン-別のアミノ酸-システイン)、CX3Cケモカイン(システイン-別のアミノ酸3つ-システイン)		22/09/02
295	下から3行目	ウイルス増殖に直接働きかけて	ウイルスに直接働きかけて		22/09/02
296	上から11行目	ニトトレマルビル(図18)、エンシトレルビル	ニトトレマルビル(図18)、エンシトレルビル(緊急承認申請するも、継続審議となった。2022年7月現在)	緊急承認で認可されなかったため	22/09/02
321	図32 縦軸	(/mm <sup>3</sup> )	(/μL)	本文の表記と一致させるため	22/09/02
331	章末問題レベル1の6)	6) CD4陽性T細胞のCD4を受容体として感染し、白血病を起こす。	6) CD4陽性T細胞に感染し白血病を起こす。		23/06/23

第15章 臓器・組織別感染症の薬物治療

365	上から1行目	市中肺炎, 院内肺炎, 医療・介護関連肺炎(院内感染症)	市中肺炎, 院内肺炎(医療・介護関連肺炎)		22/09/02
369	上から17行目	ピラジナミド原末→1回1.5g(1日1.5g)	ピラジナミド原末→1回1.5g(1日1.5g) 1日1回, 朝食後		22/09/02
391	上から7行目	セフカペン⇔ピボキシル	セフカペン⇔ピボキシル⇔		22/09/02
408	下から3行目	※パルス療法⇔イトラコナゾール	※パルス療法⇔イトラコナゾール		22/09/02